



展覧会アンケート回答

校長 高橋 浩一

本格的な冬の寒さを感じる今日この頃ですが、今年度も残すところ、後2ヶ月となりました。「2月は逃げる」という言葉もありますが、実際のところ、29日間しかなく、あっという間に過ぎ去ることと思います。だからこそ一日一日を大切に過ごし有意義な日々となるよう教育活動を展開して参ります。

さて昨年行われた展覧会の保護者アンケートでは多くのご意見をいただきました。すべてにご回答することは難しいのですが、ご要望と思われるところを集約いたしまして、本校の実態をふまえた次年度以降の指針を回答として以下の通り、お示しいたします。保護者の皆様におかれましては、すべてが納得いくものではないとお感じになるかと思いますが、児童や本校の実態、学習としての意義、教職員の働き方改革の観点からご理解を賜りたいと存じます。よろしくお願いたします。



Q1 展覧会は毎年開催するのか。

A 令和6年度は音楽会、令和7年度は展覧会とし、それ以降も隔年で音楽会と展覧会を開催します。学芸会・学習発表会は行いません。

まず育成すべき資質・能力が示された学習指導要領では、学芸会のような劇を演じる表現は記載されていません。そのため都内の学校は、学芸会を廃止し、学習の成果を発表する学習発表会と名を変え開催するようになりました。しかし個々やグループによる発表は指導内容が複雑で、練習や本番の発表時間が膨大となり、他教科の学習時間を費やすこととなります。そのため、学級や学年単位でまとまった発表をすることになり、結局のところ劇を用いたり、合唱・合奏といった音楽的要素を用いた発表となったりしているようです。そうなるのであれば、劇になってしまう学習発表会を廃止し、音楽的要素を用いた発表にシフトした音楽会を開催した方がよいと考えました。

そこで音楽会と展覧会を同じ年度内で開催してはどうかと思うかもしれませんが、どちらの行事も、児童にとって、また教職員にとって、かなりの労力と時間を費やします。無理なく児童の意欲を高めながら行事を成功させ、他教科の学習時間を確保するためには、音楽会と展覧会を隔年で開催することが望ましいと判断しました。

Q2 作品カードに名前だけでなく、製作一言メモや作品説明(感想)を付けてほしい。また作っている工程を撮影した写真や動画があればよい。そうすれば作品のよさが引き立つ。

A 製作一言メモ、作品説明、作っている工程を撮影した写真は付けません。(動画も)

学年における作品のモチーフや作成方法については、簡単ではございますが、お便りや掲示で示しております。そちらをお読みいただきながら、児童の様子を作品から想像していただくことも楽しみになるかと思えます。また皆様に見てもらおう製作一言メモや作品説明となると、それなりの完成度が必要で、指導時間が必要となります。そこに時間を充てるのではなく、作品作りに時間を充てていきたいと思えます。工程を撮影した写真、動画に関してもそこに時間を充てるのではなく、指導に時間を充てたいと考えます。

Q3 低学年の児童にとって使用したことがない電動のこぎり、彫刻刀、ミシンなどの道具の説明や展示があるとよい。また手を加えていない材料も一緒に展示すれば、ビフォーアフターが分かる。

A 展覧会準備時間に余裕があれば行います。

まずは児童の作品そのものの展示準備を優先的に考えていきます。今回の展示準備でも、勤務時間を大幅に超える日もありましたのでご容赦いただきたいところです。

Q4 学級・学校全体の共同作品は作らないのか？全校児童のアクションペインティングがあるとよいのでは？

A 基本的に学級・学校全体の共同作品は作りません。

作品作りに要する時間は個人差があり、まずは一人一人が心を込めて丁寧に作品を作り終えることにフォーカスして指導しています。ただし、早く作成し終えた児童同士（児童全員）が集まり、時間の余裕があれば、その延長線上に共同作品を作ることは考えられます。

**Q5 SDGsというテーマなら、ご家庭にある使用していない材料、廃材をもっと利用してもよいのでは？
⇒SDGsをテーマにしなくてもよいのでは？**

A できる範囲で再利用していきたいと考えますが、難しいところもあります。

できるだけ新しい材料は購入しないという考えよりも、材料を無駄にしないという考えで展覧会を行いました。それは作品に必要とする材料が全家庭にあるとは限らず、限られた時間の中で材料をご用意していただく必要があったからです。期日までに仕上げ、展覧会に間に合わせることを優先したいと考え、新たに材料を準備していただきました。

今回とは逆に、SDGsにとらわれないで使える材料に制限をかけず、思うがまま作品作りに没頭させる指導方法もあり得ますので、何がベターなのか、開催する年度ごとにテーマを考えていこうと思います。

Q6 体育館の空調がよく効いて温かったが乾燥が激しくて長時間居るのが辛かった。

A まずは温度調整を今後も優先させていただきます。ただし、インフルエンザ等感染対策のため換気も必要かと思っておりますので、体育館内担当が30分に1回程度、4か所の扉を開けるよう配慮していきます。

Q7 1年生の災害備蓄食品用のプラバックで作ったお部屋の作品に名前がなく、誰のものか分からない。

A 作品のよさを打ち消さないか、今後も考え、名前を書く、書かないを判断していきます。

一人一人の平面作品、立体作品には必ず名前カードを付けています。災害備蓄食品用のプラバックで作ったお部屋の作品は共同作品であり、また作品の特性からもお部屋一つ一つに名前を書くのは、そのよさを打ち消すと考えました。逆に災害用セットのスプーン暖簾には、スプーン一つ一つに名前が書いてありましたが、その方が作品のよさを引き出させると考えました。

Q8 展覧会では授業を参観できると思っている保護者がいた。

A 展覧会に関するお便りで、文章では授業公開はしないと記載しましたが、そのお便りのタイトルに「展覧会(学校公開)」と記載があったため誤解を生みました。申し訳ございません。

Q9 展覧会の保護者鑑賞日に授業公開をしてほしい。

A 展覧会の保護者鑑賞日に授業公開は行いません。

授業公開の際には、授業のない教員や他の職員は不審者対応のため、校内巡回しています。しかし展覧会では、それらの教職員は体育館会場に常駐することになり、不審者対応することが難しいためです。また教員にとって展覧会の準備にかなりの労力と時間を費やしており、いくら日常の授業（テストや調べ学習といった自学学習を含めたもの）でよいとしたとしても、教員はそのように簡単に考えることが難しいため、展覧会準備、並びに授業公開準備という精神的、物理的な負荷がかかります。代案としては、2学期の別日で土曜授業公開ができないか模索したいと思います。

Q10 展覧会などの行事ごとのアンケートで、どのような意見があり、それに対してどう考えていくか提示してほしい。子供たちにタブレット学習を推進するのであれば、このようなアンケートもオンラインでできるようにしてほしい。

A 本町小スポーツの日、展覧会に関して、ご要望を集約してご回答させていただいております。アンケートのオンライン化は、本校としても効率がよく集約できるので、大変興味があるところです。ただ児童に配布しているタブレットは、そのためには利用できない規約になっているので、他の手段を模索していきます。

Q11 災害用セットのスフーン暖簾は入り口で人の出入りが多く、立ち止まって見ることができなく、我が子の作品がどの位置にあるのか分からないまま帰宅した。あらかじめ子供に聞いておけばよかった。
⇒自分の子供が作成したスフーンを探すのが楽しかった。

A 暖簾のどの辺りにあるか文章などでお知らせするのは難しいです。お子様に聞いていただけると助かります。よって次回の展覧会は、下校後児童が帰宅せず、保護者と一緒に鑑賞できることを周知していきます。

Q12 児童が下校後、一度帰宅してから保護者と一緒に鑑賞は難しい。帰宅せずに一緒に鑑賞したい。児童が帰宅してから展覧会へとなると往復30分かかる家庭もある。

A 次回の展覧会は、下校後児童が帰宅せず、保護者と一緒に鑑賞できることを文章で周知していきます。お詫びのお便りでもご説明しましたが、こちらの連絡方法の不手際で、児童が一度帰宅したため保護者と一緒に鑑賞できなかったご家庭と、帰宅せずに一緒に鑑賞できたご家庭が存在することになりました。申し訳ございません。

下校後児童が帰宅せず、保護者と一緒に鑑賞できることとしますが、体育館会場が混雑となり、危険が生じるなどした際は、入場制限を設けていく可能性がございますことをご理解ください。

Q13 展覧会の開催期間をもう一日くらい増やしてほしい。

A 開催期間を増やすことはできません。

体育の授業や体育館を使った他教科の授業に支障をきたしてしまいます。

Q14 展覧会で児童が登校し、授業を受ける意味は？登校せずに保護者と一緒に鑑賞できないのか？

A 展覧会では、児童の登校と授業が必要で登校せずに保護者と一緒に鑑賞はできません。

展覧会に関しては学校行事ですので、教員の出勤が必要不可欠です。その際、図工専科の岩崎だけが出勤、あるいは他の教員が時間制で受付業務だけの出勤は、学校管理運営規則で認められていません。教員は午前中いっぱい、もしくは一日一斉出勤となり、児童と共に授業または行事を行うことが義務付けられています。

Q15 展覧会の保護者鑑賞日は、全学年、午前授業にして、午後から保護者と一緒に鑑賞できるようにしてほしい。

A 午前授業にして、午後から保護者と一緒に鑑賞はできない可能性が高いです。

児童を全学年、午前授業にすると教員の勤務時間も午前中までとなり、当番で受付業務を担当できなくなるためです。展覧会開催の前年度に、市の教育委員会へ本校の教育課程届を提出しますが、その判断も仰ぐ必要があります。

Q16 なぜイスを作ったのか、なぜ人形を作ったのかなど、子供に聞いても明確な答えがなかった。～のテーマでイスを作るなどと明確にすれば、子供たちも作る意義を知るのでは？

A 学習指導要領に基づいたテーマを説明し、作成意欲を高める工夫はしています。

発達段階を考慮し、育成すべき資質・能力を培うために示されている学習指導要領を基に、モチーフやテーマを説明し、児童の意欲は喚起しています。なぜイスなのか、なぜ人形なのかといった突き詰めた説明については難しく、その説明をしたとしても作成意欲の低下につながるかもしれません。

Q17 5年家庭科のランチョンマットがみな同じ柄であり、6年のバックもあまり個性を感じられなかった。

⇒ 5、6年になると家庭科の作品づくりに挑戦することが分かり、楽しみである。

A 5、6年の家庭科作品は展示しないことも模索します。

家庭科は本来、作品を飾るというよりは、暮らしに役立つものを製作することが趣旨となっています。そのため家庭科作品は、市販の似たような柄の生地を注文し、自分の好みに合わせてデザインを工夫する程度になっています。その程度の表現レベルですと、図工に比べて明らかに個性が出にくいと考えます。ただ、1～4年生に憧れをもたせるという意味では、価値がありますので検討します。

Q18 3年のにこにご弁当は粘土以外の材料も使えたら、作品の幅が広がったのでは？

A 3年の単元では粘土を使用することが学習指導要領に示されています。

まずは、粘土を使った作品を作り上げ、育成すべき資質・能力を伸ばそうと考えております。その上で、図工の授業時間内に作り終わられることを前提に、材料を増やす選択肢は出てくるかもしれません。

他にも以下のようなご感想がございました。

どれも珍しいアイデア作品ばかりで見ていてあきない展覧会だった。
特に高学年の作品は手の込んだ作品で見ごたえがあった。
体育館に入った瞬間に鮮やかな色彩に心が躍った。入り口からパワーを感じた。
子供たちの個性豊かな作品に引き寄せられるようであった。
子供の想像力、発想力がとても感じられた。
美術館に行ったときのような胸の高なりがあった。
子供の成長やアイデアが見られ、とても楽しい空間であった。長い時間見ていてもあきない。
SDGsのテーマがよく、捨てるだけでなく別のものに生まれ変わり生かすという学びを得られた。
SDGsを共通のテーマとして意識しながら統一感のある展示であった。
SDGsとして、子供のうちから社会問題解決の取組を考えさせることは素晴らしい。
全校児童の作品を見ることができ、学年が上がるとこんな作品が作れるようになるのかと感心した。
どの学年の作品もテーマに沿った作品であり、久しぶりに芸術にふれることができた。
どの学年の作品も丁寧に努力して制作したのが感じられ、感動した。
どの学年の作品も工夫が見られ制作時の悩んだ顔や夢中で取り組む姿が目に見えてきた。
技術を習得できるような工夫のされたものでとてもよくできていると感じた。
様々な美術芸術技法の使われている作品ばかりであった。
学年が上がると細かい作業が増え、まるで売りもののようなものまで作られるようになるのは素晴らしい。
親世代では経験していないような図工の学習をしているんだなど、とてもおもしろかった。
スプーンの暖簾がとてもきれいだった。また自分の子供のを探すのが楽しかった。
入り口のペットボトルキャップの看板などおもしろ展示がありよかった。
平面作品、立体作品どちらもあって見ている方もあきずに見られた。
図工クラブで展覧会の看板を作ることができ、よい思い出となった。
体育館の入ったところにテーマが飾られていたのがよかった。
図工専科の岩崎先生の空間演出が見やすく素晴らしかった。
子供の感性を引き出す先生方の指導は大変なことだと思った。
展示も見やすく、広さもあるので人が集まっても、混んでいて見えないという感じもなかった。
通路の幅が十分にとれていて見学しやすかった。作品の配置間隔がよかった。
舞台まで展示に活用して素晴らしかった。ボリューム感もちょうどよかった。
体育館のBGMの選曲がよかった。
夕方まで観覧できて混雑することなく、ゆっくり過ごせた。
車いすで来場される方を二人見た。障害のある方にも来やすい雰囲気になれよかった。
各学年のブースにどのように作ったのか説明があったのが分かりやすくてよかった。
クラスごとにまとめて展示されていたので、我が子の作品やお友達の作品を見付けやすかった。
製作の説明と共に見ることができ、その過程を想像しながら鑑賞できた。
1年生は、すごく絵が上手に描けており、人形は同じ作り方でも、一人一人違うものになると感心した。
2年生のたまごは個性豊かで、見ていてとても楽しく、子供ってすごいと感心した。
3年生のお弁当は一人一人の夢のつまんだ作品でかわいらしかった。
4年生のトントンつないでは全員の作品が個性的で楽しんで作ったのが伝わってきた。
5年生の作品は、やはり高学年になったなどと思わせる作品だった。
6年生のナイスなイスはどれもアイデアが素敵で、製作後使えるのもよい思い出となる。
6年生の作品はユーモアが感じられるものが多々あり、自由に製作しているのが感じられた。

2月の行事予定

1	木	3年社会科見学	17	土	
2	金	体育朝会、家読	18	日	
3	土		19	月	安全指導
4	日		20	火	B時程6時間授業、本町っ子タイム ^⑮
5	月	全校朝会、委員会	21	水	B時程5時間授業、音楽朝会
6	火	B時程6時間授業、5年NTT見学、本町っ子タイム ^⑭	22	木	
7	水	B時程5時間授業	23	金	天皇誕生日
8	木	児童集会、保中校庭開放、2年ステップアップ	24	土	
9	金	たてわり班お楽しみ会、3年ステップアップ	25	日	
10	土	C時程4時間授業、道徳授業地区公開講座	26	月	3・4年A時程5時間授業
11	日	建国記念の日	27	火	6年生を送る会
12	月	休日	28	水	体育朝会
13	火	1・2年B時程5時間授業、3～6年B時程6時間授業、クラブ体験	29	木	5・6年A時程5時間授業
14	水	B時程5時間授業、避難訓練			
15	木	5・6年ステップアップ			
16	金	家読、5・6年お別れスポーツ大会、1年ステップアップ			



2月の生活指導・安全指導

- ・健康を守る工夫をしよう。話をしっかりきこう。(生活目標)
- ・寒い時期の遊び方。(安全目標)

寒く、乾燥した季節には、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の広がりが心配されます。感染防止のためには、毎日の健康観察、マスク、手洗い、換気が欠かせません。

1年の中で最も寒さの厳しい時期ですが、学校でも寒さへの対策（防寒着など）をしながら、換気等に気を付けていきます。

学校は、話を聞いて学ぶ場が大変多いです。話をしっかり聞くことで、賢く、人の気持ちを理解できる優しい人になります。聞き方名人を目指し、意識を持って聞く習慣を付けていきます。

校庭や室内での遊び方についても子供たちと、楽しく過ごすためにはどうしたら良いか話し合い、安全に気を付けて過ごしていきます。

2月 道徳授業地区公開講座

令和6年2月10日（土）に、道徳授業地区公開講座を実施します。今年度は、2、4時間目に道徳及び各教科を参観していただきます。

3時間目には元東京都小学校道徳教育研究会会長、後藤忠様による6年生と保護者の方向けの授業を予定しています。当日参観も可能ですので、お時間のある方はぜひご参加ください。詳しくは先日配布したお便りをご覧ください。

6年生を送る会

2月27日（火）に6年生を送る会を行います。この会は、卒業する6年生に、これまでお世話になった感謝とお祝いの気持ちを表すものです。

今年度は、コロナ禍前までと同じように、全学年が体育館に集まることになりました。低学年・中学年・5年生でそれぞれ工夫した出し物を行い、そのお返しに6年生も出し物を行って、思い出に残る楽しいひと時を過ごす予定です。一人ひとりの児童が心を込めて6年生のために、6年生は下級生のために出し物を行うことになると思います。当日が楽しみです。

本町小学校ホームページ

「学校教育活動」では、日々の学校の様子や行事についてお知らせしています。

ほぼ毎日更新していますのでぜひご覧ください。

